

## 第 111 回岩手県総合計画審議会

(開催日時) 令和 8 年 2 月 9 日 (月) 13 : 00～15 : 00

(開催場所) エスポワールいわて 2 階 大中ホール

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事
  - (1) 令和 7 年度政策評価結果等に係る政策等への反映状況について
  - (2) 令和 8 年度当初予算 (案) について
  - (3) 第 1 回「若者・女性部会」の開催結果等について
- 4 意見交換 (テーマ: 今後、岩手県が重点的に取り組むべきことについて)
- 5 その他
- 6 閉会

### 出席委員

伊藤 裕一委員、牛崎 志緒委員、大建 ももこ委員、小川 智委員、  
小田 舞子委員、上濱 龍也委員、佐々木 光司委員、佐々木 洋介委員、  
佐藤 智栄委員、沢田 茂委員、菅原 紋子委員、滝川 佐波子委員、  
長屋 あゆみ委員、山下 泰幸委員、吉野 英岐委員

## 1 開会

### ○西野政策企画部副部長

ただいまから第 111 回岩手県総合計画審議会を開催いたします。

私、事務局を担当しております政策企画部副部長の西野と申します。よろしくお願いいたします。暫時司会を務めさせていただきます。

本日は、また希望された委員の皆様にはリモートにて御出席いただいております。よろしくお願いいたします。

次第等につきましては、紙でお配りしておりますが、その他の資料につきましてはお手元の端末に格納しておりますので、御確認のほどよろしくお願いいたします。

それでは、審議会の開催に当たりまして、会議の成立について御報告いたします。伊藤委員は遅れるというお話をいただいております。委員 20 名のうち 15 名の委員の皆様が御出席いただいております。半数を超えておりますことから、岩手県附属機関条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。

## 2 挨拶

### ○西野政策企画部副部長

それでは、開会に当たりまして達増知事から御挨拶申し上げます。

### ○達増知事

皆様お疲れ様でございます。お忙しいところ、また真冬の大変なところ御出席、御参加、誠にありがとうございます。日頃より県政の推進に御尽力をいただいていること、重ねて御礼申し上げます。

さて、県は2月4日に令和8年度当初予算案として、名づけて「県民一人ひとりの地方創生予算」を公表しました。当初予算は、いわて県民計画（2019～2028）第2期アクションプランの下、人口の自然減、社会減対策を主軸にしながらGX、グリーントランスフォーメーションとDX、デジタルトランスフォーメーションを両翼に安全・安心な地域づくりを基盤として10の政策の着実な推進と新しい時代を切り拓くプロジェクトの展開によって、世界に開かれた地方創生を推進する施策が盛り込まれています。

本日の審議会では、政策評価結果等の政策等への反映状況、令和8年度当初予算案の概要及び第1回「若者・女性部会」の開催結果についての説明の後、いわて県民計画第3期アクションプランや次期地方版の地方創生に関する総合戦略の策定等に向けた参考とするため、今後、岩手県が重点的に取り組むべきことについてをテーマに委員の皆様から幅広く御意見を伺います。

委員の皆様におかれましては、それぞれの御活躍の分野、地域などから忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶といたします。

よろしく願いいたします。

### ○西野政策企画部副部長

それでは、以降は着座にて失礼いたします。議事に入ります前に本日の審議の概要等、会議の進め方について事務局から御説明申し上げます。

### ○本多政策企画課総括課長

それでは、資料1を御覧願います。議事につきまして、本日は3つ予定してございます。まず1つ目は、令和7年度に行われました政策評価結果等の政策等への反映状況の概要について、資料2により御説明申し上げます。

次に、2つ目といたしまして、令和8年度当初予算（案）の概要について、資料3により御説明申し上げます。

3つ目といたしまして、12月に第1回目を開催しました若者・女性部会の開催結果等について、資料4により御説明申し上げます。これら3つの議事につきましては、一括して説明させていただいた後、説明内容に関する御質問、御意見等がございましたら御発言をお願いしたいと考えております。

続きまして、4、意見交換につきまして、本日テーマを「今後、岩手県が重点的に取り組むべきことについて」としてございます。今後策定を進める第3期アクションプランや次期地方版総合戦略の策定等に向けまして、枠囲みの中に記載しております項目の例を御

参考にそれぞれのお立場から3分程度で御発言をお願いしたいと考えております。

最後、その他につきましては、皆様から御意見がありましたら御発言をお願いしたいと考えてございます。説明は以上でございます。

### ○西野政策企画部副部長

それでは、本日の審議会の内容は、以上を予定しておりますので、よろしくお願いたします。以降の進行につきましては、小川会長をお願いしたいと存じます。お願いたします。

## 3 議事

### ○小川智会長

それでは、ただいまから3の議事に入ります。議事の(1)、令和7年度政策評価結果等に係る政策等への反映状況について、事務局から説明をお願いします。なお、御質問は会議の進行上、議事(1)から議事(3)の全ての説明が終わった後にお受けしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。それでは、説明をお願いします。

### ○田高評価課長

令和7年度政策評価結果等の政策等への反映状況の概要について御説明いたします。こちらの資料でございますけれども、昨年11月に当審議会でご報告いたしました政策評価レポート2025におきまして、取りまとめました政策等の現状、課題、それから取組の方向性など、政策評価や事務事業評価などの結果を踏まえた令和8年度の政策等への立案、予算の編成等への反映状況を取りまとめたものでございます。

中段の1の政策評価結果の反映状況についてでございますが、評価結果を踏まえまして、新規事業50事業の創設、既存事業78事業に拡充を行っております。また、例えば計画等の策定ですとか、庁内体制の強化などに取り組む制度、組織体制の見直しにつきましても行っております。

2ページから3ページでございますが、10の政策分野ごとに主な新規事業、拡充事業を記載してございます。こちらにつきましては、令和8年度の事業になりまして、次の報告事項の令和8年度当初予算(案)についての方で御説明をさせていただきたいと思っておりますので、本資料による説明は割愛をさせていただきたいと思っております。

4ページの事務事業評価結果の反映状況でございます。政策推進プランを構成する739事業とその他の政策的な125事業、合わせまして864事業の反映状況でございますが、拡充するものが80事業、縮減または廃止・休止するものが合わせまして53事業になっております。それに加えまして、新たに創設する事業が53事業となっております。

5ページの政策推進プラン創生事業の反映結果につきまして、新規事業も含めて10の政策分野ごとに提示した資料となっております。

6ページから7ページにつきましては、公共事業評価と大規模事業評価の反映状況となっております。公共事業評価につきましては、全283事業を対象として行いまして、継続評価の対象地区のうち4地区、それから再評価の対象地区のうち1地区が関係機関との調整等のため、一時休工しておりますが、それ以外の地区につきましては事業採択または事

業継続となっております。

7 ページの大規模事業評価につきましては、事業費 50 億円以上の公共事業と事業費 25 億円以上の施設整備事業を対象としておりまして、事前評価、再評価の地区全てで事業採択または事業継続となっております。資料 2 につきましては以上でございます。

## ○菊池政策課長

続きまして、資料 3 の令和 8 年度岩手県一般会計当初予算（案）のポイントについて御説明いたします。

3 枚目右下にページ数 1 と振ってあるスライドを御覧ください。1、令和 8 年度当初予算案（一般会計）の考え方という資料でございます。こちらの方にページで予算名、「県民一人ひとりの地方創生予算」ということで記載してございます。その下に予算の考え方を記載してございますが、後ほどまた別のスライドで触れますので、こちらでは説明は割愛させていただきます。

2 ページ目の当初予算案の規模でございますが、予算の総額は前年度から 5.6% 増の 7,742 億円となっております。そのうち震災分につきましては 321 億円となっております。

3 ページから 5 ページにつきましては、予算の推移や歳入、歳出のポイントとなっておりますが、こちらはそれぞれ割愛させていただきます。

6 ページの令和 8 年度一般会計当初予算（案）における主な取組ということでございます。震災からの復興を着実に進め、自然減・社会減対策を主軸とし、輸出やインバウンドの拡大などによる世界に開かれた地方創生と物価高対策やツキノワグマ対策など、暮らし・仕事を守るための取組により、県民一人ひとりの地方創生を推進してまいります。

4 つの重点事項の予算総額でございます。黄緑の部分に 4 つの重点事項とありまして、令和 7 年度が 916 億円、令和 8 年度が 1,001 億円ということで、85 億円増となっております。一層取組を強化してまいりたいと考えております。それぞれ 4 つの重点事項ごとの予算額などを記載してございますが、右下の方に（注 1）といたしまして、4 つ重点事項に係る主な増減理由ということで記載させていただいておりますので、御覧いただければと思います。また、左下のほうでございます、赤地に白抜きで書いてございますが、こちら物価高対策でございます。令和 7 年度補正予算と令和 8 年度当初予算案の総額で 154 億円となっております。令和 8 年度につきましては、家計負担の軽減策、地域経済の活性化につながる観光需要の喚起策などを盛り込んでいるところでございます。

以降のページでございますが、復興や 4 つの重点事項、10 の政策分野ごとの新規事業、拡充事業を中心に掲載しておりますけれども、時間の都合上、それぞれポイントとなる事項ですとか取組について御説明させていただきます。

7 ページから 9 ページは復興の取組となります。「安全の確保」、「暮らしの再建」、「なりわいの再生」、「未来のための伝承・発信」の 4 本の柱の下、東日本大震災津波の経験などを踏まえ、将来起こり得る災害に備えるとともに、被災者のこころのケアやコミュニティの形成支援、水産業をはじめとするなりわいの再生などに引き続き取り組んで参ります。また、東日本大震災津波伝承館を核とした伝承・発信に取り組みます。

10 ページは 4 つの重点事項に関する主な施策となっております。まず、自然減・社会減

対策につきましては、「少子化対策」、「社会減対策」の強化の3本の柱とジェンダーギャップの解消、地域の状況に応じた取組の強化の2本の機軸として整備、体系化しております。この体系の考え方につきましてはこれまでと変わりありませんが、「少子化対策」、「社会減対策」の柱の名称については見直しを行っております。例えば少子化対策の1つ目ですが、「出会いや結婚を応援」としてありますが、もともとは「有配偶率の向上」としておりました。これを一人一人の人生戦略に応じた人口減少対策として展開していくといった観点から、「出会いや結婚を応援」ということで柱の名称を見直しているところがございます。また、この後報告させていただきますが、12月に開催した若者・女性部会においてもこの柱の名称について違和感があるといったような御意見もいただいております、そうした御意見も踏まえまして、伝え方、伝わり方にも留意して見直したところがございます。また、これまでプラスワンとしていた広域振興局を核とした市町村や地域の状況に応じた取組の強化、推進ポイントとしておりましたジェンダーギャップの解消につきましては、「少子化対策」、「社会減対策」に通じる2本の機軸として整備、発信してまいりたいと考えております。具体の取組につきましては、11ページから12ページが少子化対策となっております。出会いや結婚のサポート、無痛分娩の実施に向けた分娩取扱い施設への補助、仕事と子育てを両立できる雇用環境整備に取り組みます。

次が社会減対策でございますが、13ページから15ページとなります。こちら「社会減対策」では、インバウンド観光や海外輸出の強化、U・Iターンの支援やマッチング、官民協働の関係人口の量的拡大、質的向上に取り組んでまいります。

17ページがジェンダーギャップの解消についてでございます。こちらにつきましては、例えばプレコンセプションケアの若い世代への普及啓発などに取り組んでまいりたいと考えております。

18ページから19ページがGXの推進となっております。こちらでは脱炭素化や再生可能エネルギーの導入等に向けた県民事業者、市町村等の取組を促進するとともに、森林整備や藻場の造成など森林等吸収源対策に取り組みます。また、近年の気候変動や海洋環境への適用をするため、高水温に強い養殖種への転換促進などに取り組みます。

20ページ以降がDXでございます。生成AI等も活用して、産業、生活、暮らしなど、あらゆる分野のDXを推進します。また、デジタル化、DX化を支援する人材を市町村に派遣し、伴走型支援を実施いたします。

24ページから25ページでございます。こちらは安全・安心な地域づくり、こちらでは災害対応のDX化や家畜伝染病予防体制強化への支援のほか、ツキノワグマをはじめとする野生鳥獣による被害防止対策など安全・安心な地域づくりを強化します。

26ページ、ここからが10の政策分野となります。まず、「健康・余暇」でございますが、修学資金の貸付枠の拡充による看護職員の確保や奨学金返還支援による病院薬剤師の確保に取り組みます。また、介護人材の確保に向けて、労働環境、処遇の改善を支援します。この26ページの下の方でございますが、岩手県立病院等事業会計では、建替えを行う釜石病院にいわてリハビリテーションセンターと連携した回復期リハビリテーション病棟の整備に取り組んでまいります。

27ページ、「家族・子育て」でございます。引き続き保育料無償化、在宅育児支援に取り組むとともに周産期医療情報ネットワークの機能強化、市町村が目指す産後ケアの実現

に向けまして、利用料無償化等の支援に加えて複数市町村が共同で産後ケアを実施する場合の費用を支援いたします。

28 ページ、「教育」です。国と連動した高校生等への授業料支援などを行います。また、県立農業大学の施設整備に向け、基本設計等に取り組みます。

「居住環境・コミュニティ」、29 ページでございます。岩手暮らしの魅力発信を強化しながら、市町村と連携した対象地域を全国とする新たな移住支援金制度によりまして、U・I ターンを促進いたします。また、市町村の住宅確保対策や関係人口の拡大など、人口減少対策を推進するため、国の制度を活用した市町村の伴走支援を強化いたします。

30 ページ、「安全」でございます。地域防災サポーター制度を活用した自主防災組織の組織率の向上、活性化や消防団員の加入促進など、地域の防災体制の強化を支援いたします。

31 ページ、32 ページは「仕事・収入」でございます。安定した雇用の確保、若者や女性等が働きやすい環境の整備に取り組みます。また、いわて農業生産強化ビジョンに基づく生産基盤の強化、農林水産物の高付加価値化、生産性・市場性の高い産地づくりを推進いたします。

33 ページ、「歴史・文化」でございます。平泉の文化遺産拡張登録に向けた取組ですとか、世界遺産登録 15 周年、御所野遺跡の世界遺産登録 5 周年を契機とした魅力発信に取り組みます。

34 ページ、「自然環境」でございます。捕獲の強化やガバメントハンターによる被害対策などによりツキノワグマ対策を強化します。また、シカ、イノシシ等の捕獲や電気柵等の設置への支援、新たな侵入防止対策技術の実証に取り組みます。

35 ページ、「社会基盤」でございます。災害に強い道路ネットワークの構築、社会資本の適切な維持管理により、長寿命化対策に取り組んでまいります。また、高等教育機関等と連携したイノベーションの創出に向けた研究開発、科学技術の社会実装を推進いたします。

36 ページ、「参画」でございます。ジェンダーギャップの解消に向けまして、夫婦やパートナー間での家事・育児のシェア、家事の負担軽減に向けた取組を促進いたします。

37 ページから 52 ページでございますが、こちらは新しい時代を切り拓くプロジェクトの資料となっております。ILCプロジェクトですとか、3つのゾーンプロジェクトなど、岩手らしさを生かした新たな価値、サービスの創造など先導的な取組を展開してまいります。

53 ページでございます。飛びますが、53 ページの方には広域振興圏の施策について盛り込んでございます。市町村と連携を一層強化しながら、各圏域の特性を踏まえた人口減少対策を進めてまいります。

以降のページについては、資料 3 の説明を割愛させていただきます。次に、資料 4 でございます。第 1 回「若者・女性部会」の開催結果について御報告いたします。資料 4 の 1 ページでございます。会議概要でございますが、第 1 回目部会は令和 7 年、昨年 12 月 22 日にオンラインで開催しております。委員 8 名皆様に御出席いただきました。議事につきましては 2 点、1 点目が部会長、副部会長の互選、2 点目が地方創生 10 年の成果と課題でございます。

議事の1点目、部会長、副部会長の互選につきましては、部会長は牛崎委員さんに、副部会長には一般社団法人いわて圏の佐藤柊平委員に御就任いただくことと決定いたしました。

次に、議事の2点目、地方創生10年間の成果と課題ということで、初めに事務局から御説明を差し上げた上で、意見交換を行っております。

資料の2ページ以降、各委員からの御意見を項目ごとにまとめております。内容につきましては、牛崎部会長から御報告をお願いしたいと思っておりますが、1点補足させていただきます。御意見の中には、青とか赤とかで下線を引いている部分がございます、2ページ以降でございますが。こちらについては、6ページに記載している今後の議論において核となる観点につながる部分として整理しているものでございます。今回いただいた御意見には共通する視点、考え方などがございました。この青と赤の下線の部分でございますが、こうした共通事項を整理して今後の議論の土台として整理していきたいと考えております。

それでは、恐れ入りますが、牛崎部会長さんから当日の御意見について御紹介いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ○牛崎志緒部会長

今回、第1回目の部会でありましたので、委員の皆様の自己紹介も交えながら岩手の現状や課題などについて意見交換をしました。学生の方も御参加されていらっしゃいましたので、非常に和やかでありつつ、本当に岩手に対して愛情を持った方々ばかりの会でしたので、非常に率直で大変楽しい会だったなと思っております。

まず、岩手県の特徴でもある「幸福」についてですが、その明確なキーワードが「幸福」であるという評価、「幸福」であるということについて御評価いただくといった声もあったほかに、岩手にゆかりのある若者が様々な分野で活躍されていることに希望と幸福感を感じて、これが持続可能性につながっていくという御意見もございました。

また、「仕事関係」ですね、ここはコメントが多く寄せられたところでしたけれども、U・Iターンの減少が企業の人手不足ですとか、後継者不足につながっているという指摘ですとか、あとはこれは学生の方でしたけれども、リモート勤務が可能であれば県外在住者が県内企業に就業するといったことも可能になると思うといった人口減少社会において、今後ますます重要となる視点からの御意見もいただいております。

3ページになります。「家族・子育て関係」として、柔軟な働き方ができることですか、男性の子育て参画を後押しする仕組みが重要であるという御意見がありました。また、事務局から10年間の取組の成果について御説明がございましたが、この御説明を受けて、子育て環境が魅力的と感じた一方で、そういった情報を知らなかったという声もありました。そういった御意見から、さらに県外に出ると岩手の情報に触れる機会がない。中学校ですとか高校の早い段階で岩手の政策を知らせることで人生設計の選択肢に岩手が上がっていくのではないかとといった御指摘につながったといったところがあります。

「移住・定住・関係人口関係」になりますが、こちらは関係人口に関する御意見が多く見られました。20代、30代に県外で経験を積んだ方に対して、それぞれのタイミングでUターン、Iターンをしやすいするなど、懐を広くすることで岩手を選びやすくなるのでは

ないかという御意見がございました。

続いて、4ページです。こちらは、「人口減少への向き合い方」についてなのですが、事務局の御説明では、現在の人口構造を踏まえると、出生率が向上した場合でも人口減少はすぐには止まらないという説明がございましたが、委員からは人口が縮小する前提に立って、それと同時に社会を充実させていく縮充と、こういったアプローチが重要になってくるといふ御意見がありました。

「ジェンダーギャップ関係」については、岩手県の取組全体でジェンダーギャップ解消を掲げているということは岩手の強みになるという非常にポジティブな御意見が寄せられました。一方で人口減少対策の議論が女性のプレッシャーになっているという御意見ですとか、アンコンシャス・バイアスの解消に向けた取組が行き届いていないのではないかという御意見がございました。

5ページの「メッセージ性」についてです。先ほど人口減少対策の議論が女性へのプレッシャーになっているのではないかという御意見を紹介しましたが、これまでの県の情報発信がインクルージョンの視点が足りなかった理由があるのではないかと。また、若者世代への押し付けと感じられてしまう表現があるのではないかとという御指摘があったほかに、取組自体はしっかりやっていて成果も出ているのに、表現でひっかかってしまうのはもったいないという意見も出されました。

最後に、「岩手に戻らない・就職しない理由」として、県外在住の委員を中心に御意見をいただいたもので、就職先あるいは副業の面で東京の方が選択肢が多いという御意見のほか、岩手で子育てするのがイメージを持ちやすい一方で、戻るかどうかというのは仕事あるいは子育て環境、パートナー次第といったような御意見もございました。部会で出された御意見は以上になります。

## ○菊池政策課長

それでは、資料の6ページを御覧ください。ただいま牛崎部会長から御報告いただきました委員さんの御意見には共通点がございます。そうした観点でこの青地に白抜きの施策の方向性に関する観点、そしてもう一つ赤地に白抜きで施策の推進に必要な観点ということで、各委員の共通する意見を整理しているところでございます。

まず、施策の方向性に関する観点を希望の後押しでございます。委員さん方からの御意見として、大学進学する際の選択肢の話ですとか、就職する際の選択肢の話といったような御意見ございました。そういった観点で、まずこの施策の方向性に関する観点を1つ目として、「希望の後押し」ということで1つ整理させていただきました。また、2つ目ですが、関係人口、つながりということで「つながりの拡大」ということで、もう一つ整理しました。3つ目でございますが、今後人口が減少していく中で、社会構造の変化、担い手不足であったり、あるいは意識だったり行動の変容ということで、そうした「変化に適応するアプローチ」も必要ではないかということでこの3つ、施策の方向性に関する観点ということでまとめております。

下の施策の推進に必要な観点でございますが、「情報との接点」ということで、やはり岩手を知ってもらおう情報と早い段階で触れてもらうということが重要なのではないかと。また「メッセージ性」ということで、伝わり方、伝え方ですとか、包摂性、イン

クルージョンといったような形でのメッセージ性を検討していく必要があるだろうということで大きく施策の方向性に関する観点、施策の推進に必要な観点ということでまとめさせていただきました。こういった観点をベースにしながら、今後若者・女性部会を進めていきたいと考えているところでございます。

#### ○小川智会長

議事（１）から（３）までの説明ありがとうございます。それでは、ただいまの御説明に対して、10分程度時間を設けたいと思いますので、どうぞ遠慮なく委員の皆様から御質問等、御発言をお願いします。それでは、小田舞子委員をお願いします。

#### ○小田舞子委員

具体的なところについて御質問です。社会減対策の3本柱のところにある海外輸出強化事業費というのがあるのですが、そこに有望市場であるタイ、シンガポールと書いてあるのですが、数ある市場の中でこのタイとシンガポールにフォーカスした理由を教えてください。

#### ○橋場商工労働観光部副部長

岩手県は、「いわて国際戦略ビジョン」で海外展開における一定の指針を定めております。県産品の輸出に関しましては、これまでも東南アジアが有望市場、その前に中国などもあるわけですけれども、令和8年度においては、特に東南アジアを強化していくということでタイ、シンガポールに展開していくことを考えているところでございます。

#### ○小田舞子委員

ありがとうございます。アメリカだとか、ヨーロッパの人たちに岩手のことを言うと、商品とかすごく興味あるという声も聞いていたので、まずはタイ、シンガポール、東南アジアということだと思えるのですけれども、さらに広い視点でもう既に動かれていると思うのですけれども、そういう視点もお持ちになってもいいのかなと思いました。ありがとうございます。

#### ○小川智会長

達増知事をお願いします。

#### ○達増知事

今の件を補足しますと、あくまで令和8年度の予算ということで、令和7年度にはアメリカに2回、トップセールスをやっていて、令和8年度にはタイ、シンガポールということで、また別途ヨーロッパも意識していますし、そういう状況であります。

#### ○小田舞子委員

ありがとうございます。

#### ○小川智会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。ぜひこの機会ですので、委員の皆さん御質問をお願いします。特にございませんか、よろしいですか。それでは、質疑に関してはこれで終了をさせていただきます。

この後、意見交換の時間がありますので、もしお気づきの御質問等ありましたら、その時でも構いませんので、遠慮なくお願いします。

#### 4 意見交換

##### ○小川智会長

続きまして、4の意見交換に移ります。先ほど事務局から説明がありました報告事項に関して、「今後、岩手県が重点的に取り組むべきことについて」、委員の皆様から3分程度で御発言をお願いしたいと思います。事務局において2分30秒でベル1回、3分で2回鳴らしますので、発言の目安としていただければと思います。

それでは、いつもの順番ですが、伊藤裕一委員からお願いします。

##### ○伊藤裕一委員

大変お疲れさまでございます。遅れて出席しまして、大変失礼をいたしました。

まずは、御説明をいただいて、全体として実施をしている事業について、常に見直しを図りつつ組み立てられておりますことに、そのことについては評価をしているところでございます。

私どもは労働組合でございますので、働く者の立場から申しますと、人材の確保というのが県内企業にとっても重要な課題であると考えています。実際に関係する各企業様とお話をいたしましても、多くは同じような課題認識を持っていらっしゃいます。現に場合によっては人材確保ができないために、事業継続が困難となるケースに至るといった場合もあることからいたしますと、なおさらそう感じているところでございます。

そもそもより働きたい人たちに選んでいただける、より魅力ある企業であるということが必要であると考えておりますけれども、労働組合の立場からいたしますと、自らの待遇や働き方を改善することそのものも今後の人材の確保につながるものと受け止めて、常にそういったことも念頭に置きながら取り組んでいるつもりでございます。そういう意味で、県としましてもそういった課題認識からということにもなると思うのですが、自然減、社会減対策を重点事項に位置づけながら、各種の事業展開をいただいていることには感謝を申し上げたいと思います。

この課題、特に人口減少の課題は、日本全体の課題でもあるといったことからいたしますと、岩手固有というものではないことは十分承知をしておりますけれども、今後の人口推計から、あるいはこれまでの予想を上回るスピードで人口減少が進んできたことからいたしますと、岩手としてこの課題に取り組んでいくことは重要な視点であると思っておりますので、ぜひ引き続き取組の強化をお願いしたいと思っております。

そういった観点からですが、報告いただいた若者・女性部会の開催結果等について、興味深く伺ったところです。やはり何かしらの課題というのは常に現場で起きることありますから、自然減、社会減対策だって当事者やその部分に近い方々の課題にもより近いと

考えますので、今後も引き続きこういった開催をしていただき、率直な意見の中にこそ重要なことがあると思いますので、今後の事業に生かしていただきたいなと感じました。

#### ○小川智会長

牛崎志緒委員をお願いします。

#### ○牛崎志緒委員

先ほど若者・女性部会の報告の中でもいくつか報告させていただきましたが、この総計審の中で委員の皆様がよく話をされることと非常に共通項のある御意見が多くあったなどちょっと先に感想を述べさせていただきます。

まず、私から2点でございます。1点目として、今、私は若者の就労支援をしている施設のジョブカフェいわてというところにおりましたので、ここから感じていることを2つ、Ⅲの「教育」に絡めて申し上げさせていただきます。1点目は今我々が10年、20年、県内高等学校によくお邪魔する機会があるのですが、明らかに人口が減っているのです、昔は2クラスあったところが1クラスになっているのは当たり前なのですが、本当に各高校の1学年の数が減っているのです、地域ですとか、もちろん学校の皆さん含めて本当に学校を大切にしていらっしゃる中で、やはりリソースには限界があつて、先生方ですとか、地域の皆さんの教育関係のステークホルダーの皆さんが力を尽くしていらっしゃるところは大前提としてなのですが、県内外の有識者がもっともつと入って、岩手の教育の現場というのをしっかり盛り上げていくといったような体制に少し力を傾けられないかなと考えたところで、非常に漠然とした意見が1点です。

もう一点ですが、一昨日なのですが、ちょうどU・Iターンの支援をしている中で、1年ぶりぐらいに音信が途絶えてしまったUターン希望の男性の方がいらしたのですが、高校卒業してすぐ千葉に就職をなさったのです。千葉で就職されて、12年ぐらい仕事を千葉でしていました。その間、お子さんが複数授かって、いよいよ岩手にやっぱり戻りたいなと思って、久しぶりに連絡をしてくれたのですが、今あるキャリアで岩手に戻りたい、どんな職をしていらっしゃるかという、あまり詳しくお話はできないのですが、長距離ドライバーの業界にいらっしゃるのですけれども、それで岩手に就職して、仕事を紹介するのですとか、こんな情報提供できるよというのはもちろんするんですが、それだけでは制度と、あと賃金、そして教育、もう一つですね、何だろう、いくつかのソフトとハードの両面から、その人の一 가족が戻ってくることに對してサポートしていく必要があるのです、ここはもっと私どもも含めて皆さんのお知恵をお借りしていきたいなと思ったところで、今日はいろんな有識者の方がいらっしゃるので、御報告をさせていただきました。

#### ○小川智会長

大建ももこ委員をお願いします。

#### ○大建ももこ委員

私のほうからは関係人口の増加取組強化についてなのですが、観光業を営んでおりますので、関係人口の増加というのが一番、他県の方、他国からのお客様との接点の時

間が最も多い業種が、観光経営の方なのではないかなと日々感じております。

その中で、例えば、つながりの拡充、岩手ってこういうところがいいですね、こういうところが素敵ですよというのを来県者の方に共感してもらう、そこからの関係人口の拡大というのが一番近道なのではないかなと日頃感じております。文化とか、歴史とか、マスコミ関係も含めて観光だと感じているのですが、暮らし方とか。

あとは、「日本で一番美しい県は岩手県である」、三浦英之さんの作品の本が今出ておりまして、それを持って旅行に来る方というのは結構いらっしゃって、実感的に岩手県民の方って、岩手ってこんなにいいんですよということを、そこまで奥ゆかしいのでやってないのかなというのもあるので、今、三浦さんに引き続きそういうのを自分たちでどんどん言っていけるようになったらいいんじゃないかな、そういうことで関係というのが深く根づいていただいて、好きとか、ここがいいなと直感で感じる人間の本質的なところというので、岩手県というところに根づいていただければ、ここからお仕事だったり暮らしを創造するというのが幸福感にもつながっていくので、きっと切っても切れない部分なのではないかなと思います。

ちょっと別件だったのですけれども、先日地元の中学校で全校生徒に向けて地域のおこし方を少しお話しして、教えてほしいということでお伺いして行ってみたのですが、「岩手県で将来大人になったときに、皆さんは、金田一か、二戸市か、岩手県に住んでいる人、手を挙げてください。住んでいると思う人」という話をしましたら、半数ぐらいが岩手県にいるのではないかな、あとの半数ぐらいはちょっと分かりませんということだったのですけれども、大人が岩手県を見て、「ここっていいですね」と思う感覚と中学生は少し繊細な世代でもあると思うので、そこをどうにかしてお互いの世代で「いいよね」というところを共感し合っていけるような体制が取れたらいいなと思います。

## ○小川智会長

リモートで小田舞子委員をお願いします。

## ○小田舞子委員

さらに伸ばすべき点としては、今の大建委員の話もありましたけれども、岩手が好きな人を増やすというふうに思っています。一般的に岩手は、他のところと比べると岩手が大好きだと公言する人が私は多いように思っています。別の地域ですと、この地域が好きだという人が実は少ないんですみたいな自虐的に打ち明けられることもあったりします。ですから、ここは岩手が誇れるもので、さらに伸ばすべきポイントだと考えています。

以前の会議で、県内のどちらかの自治体の中で、高校生を対象に地元の経済やコミュニティを発展させるという視点でのキャリア教育をしたところ、地元に残るという選択をした方が増えたという報告があったと記憶しています。こうした教育に注力していくのも一つかなと思っています。

また、一度県外や国外に出ても地元とつながり続けるという風土の強化も効果的だと思います。既にある県出身者のつながりに対する何らかのサポートがあってもいいかもしれません。具体的に言うと、東京では岩手わかすフェス、THEいわてDAYなどの恒例イベントがありますし、またいわて暮らしを学ぶ学校などもとても良い取組だと思っています。

す。

私は、いわて銀河プラザを応援する女子会 anecco で、2010 年から活動を継続していますが、こうしたイベントをきっかけに続々と新しく個性的で積極的な男女メンバーが anecco メンバーに加わってくれています。メンバーの中には、将来的に岩手と関東の 2 拠点居住や岩手への移住を計画している人もしくは既に移住を果たした人もいます。こうした生きた関係人口の創出につながる仕掛けにこれからも注力してほしいと思います。

また、話替わります、ジェンダーギャップの解消を目指している点、女性、若者へのサポートがある点も大変すばらしくて、今後も続けてほしいです。

あと、熊の対策もすばらしいと思います。そして、気候変動の影響などで、海や山でこれまで取れていたものが取れなくなっているということに関する対策もぜひ進めていただきたいと思います。

一方、底上げが必要な点としては、観光客により分かりやすいアピール力を伸ばしてほしいと思います。この観光客というのはインバウンド、そして国内からの旅行客、両方を指しています。実は、岩手を旅した関東圏の在住者から、「せっかく岩手を旅したが、旅先で困ったときにあまり地元の方からサポートしてもらえず残念だった」という言葉を直接聞きました。外からの旅行客に対して、さらに優しく、丁寧に、5 聞かれたら 10 返すくらいの気持ちで、サービス精神旺盛に対応する力をつけられたらと思います。合い言葉は、ホスピタリティとサービス精神だと思っています。

もう一つ、ちょっと似ているのですが、経済面でもコミュニケーションがちょっと気になります。東京で働いていると、例えば、仕事のメールはすぐに返信するという人が多いと思います。岩手の事業者さんとのやり取りをするとき、時々返信がちょっと遅いなど思うことがあります。一方で、すぐに返信してくださる方もいらっしゃるって、両者のギャップが大きいなと思います。

そういったことも含めまして、例えば、子供に対するキャリア教育ももちろんなのですが、大人に対しても何らかの更に前向きで新しい物事に挑戦する人たちを創出するようなアクションがあってもいいのかなと思います。これは、仕事を時間を長くすることを意図したものではなくて、効率アップを重視して、むしろ仕事時間は短くする方向を意図した提案です。

## ○小川智会長

上濱龍也委員どうぞ。

## ○上濱龍也委員

事業について多岐にわたりますので、私の立場からちょっと小さな視点でお話をさせていただければと思います。特に教育に関わって、こちらの予算の方にも不登校ですとか、いじめですとか、あとは支援を要する子どもたちに関係するもの、あとは給食費の問題とか、実際直面している非常に喫緊の課題に対しての対応が速やかに取られるということについてはありがたいなと考えておりますけれども、一方で、学校自体の底上げという観点で捉えていったときに、予算の表のところに出ない基礎的なところで、例えば教員数の問題やそれに対する人件費といったところが、当然規定に従ったところで配置されているの

は重々承知しておりますけれども、現代の学校において当然育休、産休ですとか、あるいは病休ですとか、そういったところに対して、子どもたちが減っている中で、講師等で補充ができない。そうすると、管理職が教室に入って授業をしなければいけないという学校が非常に多くなっています。また、県内小規模の学校が多いので、若手の教員が研修に出ようにも学校外に出ていくことができない。そうすると、研修の機会を得ることができないので、非常に追い込まれた状況にある学校も多いという事実だろうと思います。予算との兼ね合いがあるので、非常に難しい問題であることは重々承知はしているのですが、教育というのは未来への投資ですし、何より保護者が安心して学校に自分の子どもを任せることができる環境というものは、やっぱり先生方に余裕があるということが極めてベーシックなことなのだろうというふうに思っておりますので、長い目で見ながらでももちろん結構だと思うのですが、ぜひ学校の中に余力のある教員配置ができる、特に子どもが減って学校数が減少していく中で、それに併せて教員配置数を減らしていけば、現在のままの状況が改善できないということになろうかと思っております。これが中学校とかですと、部活の問題で外部指導といってもなかなかそこも人材的に進まないところもありますので、そういったところをトータルで併せて学校全体の人的余力というところにも配慮いただくとありがたいなと思っております。ぜひよろしくお願いいたします。

#### ○小川智会長

リモートで佐々木光司委員をお願いします。

#### ○佐々木光司委員

県の施策の方向性、例えば若者、女性に選ばれる県とか、それから世界に開かれた地方創生、こういう方向性は非常にいいなと思って共感をしているところでございます。岩手町は、SDGsという世界共通のキーワードを軸にして、その切り口でいろんな自治体、それから世界の国ともちょっと今つながろうとしているのですが、特にこの頃感じているところは、若者の力が地域を変えていくということを非常に実感をしているところでございます。若者が地域にどんどん入ってきますと、大人の方々、特に高齢者の方々の考え方が非常にポジティブになってまいります。そして、化学反応がたくさん今岩手町では起きている、そういうまちづくりの状況でございますが、若者の力というのはやはり地域にはすごく大事ななと思っております。岩手町も若者に選ばれる町を特に標榜して、これからもまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

その中で教育、人材育成ということが非常に大事だと思っておりますが、世界に開かれた地方創生ということで、やっぱりグローバルな視点というのが非常に大事ですが、皆さんおっしゃっているのですが、ローカルな地元学を掘り下げていくとか、ローカルな視点でのこの2つのグローバルとローカル、いわゆるグローカルという言葉がありますが、両方の視点を併せ持ったそういう人材育成をもっともっと積極的に進めていくべきかなと思っております。

そういう意味でも、小さい自治体ですが、岩手町でもそういう視点で特に若者の人材育成を進めていきたいと考えております。この視点で、かつて岩手県が実施した、もう35年ぐらい前に終わりましたが、青年の船というのが十何回か開催されたわけですが、いろい

るな批判もあったり、いろいろ事業の費用の問題もあったりしたのですが、私も35年ぐらい前に参加させていただいて、非常にいい事業だったなど、今改めて振り返っているところです。青年の船が目指したものの一つにそういうグローバルな人材育成というものがあったのではないかなど改めて感じているところでございます。ぜひこれからも若者、そして女性に選ばれる岩手を目指して頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

#### ○小川智会長

リモートで佐々木洋介委員をお願いします。

#### ○佐々木洋介委員

私は震災から15年目ということで、みちのく潮風トレイルがちょうど震災後から取り組み始めておりまして、今年度も岩手県さんのほうでみちのく潮風トレイルの受入体制強化事業ということで、新たに事業に取り組んでいただきまして、ありがとうございます。

それで、今年度、岩手県さんの方々と一緒に行ってみて思っていたのが、もちろんいろいろな観光事業者さん、いろいろな分野の方々とつながっていくというのはもちろん大事なことなのですが、今年度会議を何回か岩手県さんとか、DMOさんとか、会議を開いていただいた中で、参加するメンバーが同じで、会議する内容も同じというのが2回ほどありまして、同じ県のほうでもしやられるのであればテーマもちょっと変えていただいてもよかったのかなと思っております。岩手としてみちのく潮風トレイルに取り組んでいくというのがテーマとしてなっていると思うのですが、もしよければ提案としてなのかもしれませんが、受け入れる事業として、例えば観光事業者以外にも潮風トレイルというのは海沿いを歩くのが多いので、漁協関係者の方とか、あともちろん山も歩きますので、森林関係の方々とかという団体も受け入れて、話し合いに混ぜていただくとか、もちろん地域の方でいいと思います。地区公民館の方々とかも入れていただくと、より地域の歩く人のハイカーさんの意見というのも、歩いているときにこういうふうに言っていたよみたいな意見がどんどん出るのかと思うので、より幅広い方々に集まっていただければいいなと思っております。

あと、1つ提案ですけれども、トレイルとか、そういった世界に発信していく道なのですが、例えば、国内ですと熊野古道というのが和歌山にありまして、熊野古道も年間35万人ほど利用者があるところですが、熊野古道とかですとスペインのサンティアゴの巡礼の道のところと連携協定を結んでおります。世界のトレイルと連携するという、近くですと、宮城県に宮城県としてオルレという、トレイルとほとんど似ているのですが、そこが唐桑半島とか気仙沼の方々がオルレというのに取り組んでおりまして、そこは韓国のチェジュ島とコラボしたりしています。みちのく潮風トレイルも今後世界にどんどん広まっていく。震災を経験している唯一のロングトレイルですので、より世界のトレイルのところと連携、協定を岩手県として結んでいくというのも一つの案かなと思っております。そのほうが熊野古道とかですと、スペインに行った人と熊野古道で歩いた人とが、それで両方ともチェックポイントを集めると特別な何かもらえるとか、そういったのがあるので、ただ歩くだけではなくて、歩いたときには何か一緒に記念品をもらうとか、

そういった取組も今後できればいいなと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○小川智会長

佐藤智栄委員お願いします。

#### ○佐藤智栄委員

私からは、今後、岩手県が底上げが必要な点についてをお話ししたいと思います。

その部分の生産性の向上による労働時間の減少とありますけれども、全国的に労働人口が減っている。それは岩手県も同じ、そしてこれから人口がどんどん減っていくという中で、生産性の向上と労働時間を削減するために何が必要かといったときに、企業が求められるのがDX、そしてロボットの導入と私どもの業界では言われております。

ただ、このDXとロボットの導入というのは非常にハードルが高いと言われていますが、やれば、あっ、こんなふうにできたんだねと何となく実際導入した企業さんのお話聞くと、できそうだなと思うのですが、やはり一番大きな壁は専門性の知識を持った外部の方と一緒にやっていくか、あるいは社員さんの中で専門分野を持つような教育を外部あるいは内部でやるかということに限ると思うのですが、私どものような企業というのは、人材育成という部分に関しては自分たちの技術の伝承をしていかなければならない、時代に合った転換をしていかなければならない、資金もない、誰に頼ったらいいか分からないというのが多分ほとんどの企業さんの思いなのではないかなと思っています。

では、そこにお金、補助金とか、あるいは補助金だったらいろんなお金という部分があると思うのですが、それを投入すればいいのか、問題は解決するのかといったら、実はそうではなくて、やはりお金を得られました、補助金の報告書を書いてね、やっている、やっていないというぶつ切りではなくて、やはり5年スパンできちんと伴走支援をしていただくような体制だったり、あるいは導入してから企業が抱える問題はどのようなふうにもまた別な問題が現れてきたのかなと、きちんとそういうことを伴走支援しながらやっていくような施策がまたあれば、この労働時間と生産性というのは画期的に結果が出るかなと思っています。そこをクリアしなければ、やはり人口減少、いわゆる有配偶率のアップ、そして人口減少の課題解決とかという、それからいろいろ見えてくる解決方法というのがあると思うのですが、学校教育もそうですね、不登校というのはイコールいじめだけではなくて、教室の雰囲気とか、先生との相性とかいろんな意味の不登校というのがあると思うのですが、やはりぶつ切りではなくて、ずっと伴走支援をしていただく家庭も、企業も、そして学校も、そして地域もという伴走支援も私は必要なのではないかなと思います。

#### ○小川智会長

沢田茂委員お願いします。

#### ○沢田茂委員

いくつか考えてまいりましたので、地域の歴史とか文化の振興ということを初めにお話ししまして、時間があればほかの項目もあとで触れたいと思います。初めに歴史については、本県は歴史的に戦に連敗しているという事実があります。極めて端的に言えば、蝦夷のア

テルイと坂上田村麻呂、奥州藤原氏と源頼朝、そして戊辰戦争であり、こうした敗北の歴史がある種のコンプレックスとなっているのではないかとされています。また、蝦夷が文字を持たなかったために紙の史料がないことや「勝てば官軍」で戦の勝者側に都合のいい内容が歴史として語り継がれることからさらに中央寄りの歴史認識になりがちではないかと考えます。しかし、地域の歴史もまた当然のことながら重要でありますので、例えば、盛岡藩が蝦夷地警備を担ったこと、九戸政実や下斗米秀之進の活躍など多くの興味深い歴史が本県にはあります。もちろん、歴史的な事象や人物の評価は様々ですので一概には言えませんが、地域の隠れた歴史にスポットライトを当てることも県民の関心を引くのではないかと思います。

また、文化面においては、以前にこの審議会で発言したように岩手県は単位人口当たりの喫茶店の数が東京都より多いものとなっていますし、もりおか文士劇が年末の風物詩として定着している中で聞いたところによりますと盛岡市周辺には 20 くらいの劇団があるそうです。また、県内には岩手大学のくらむぼんや花巻市のリズムヤンガー、大船渡市のサンドパイパーズなどジャズのビッグバンドがいくつもあり、世界的に有名なジャスピアニストの上原ひろみさんはジャズが根付いていると感じるまちとして、仙台市と米子市と盛岡市を挙げていますので、ジャズも本県の音楽文化を語る上でのキーワードになるかもしれません。こういった歴史や文化などの再発見、それも県民の生活に身近なところでの再評価といったことも本県に住むこと、本県出身であることの誇りにつながっていくのではないかと考えます。

もう少し時間があるようですので、あと 2 つだけ申し上げます。他の委員さんがおっしゃるとおり、観光の注力というのも考えました。特に外国人観光客のユーチューブであるとかテレビ番組などを見ていると、外国人の方が食べているのは、丼物だったりとかラーメンなど結構身近なものが多いと感じます。本県は食材の宝庫でありますし、おいしさではどの県にも負けないかと思っておりますので、そういった観点から国内はもちろんのこと、インバウンドに力を入れていくことが引き続き重要と考えます。また、企業の活動ということについては、先ほど佐藤委員がおっしゃったように生産性が大きなポイントでありまして、この生産性は規模を追求することである程度解決される部分がありますし、賃金水準なども同様のことが言えますので、規模拡大を念頭に置いた施策、補助金、助成金などというものも考えていただければと思います。

## ○小川智会長

菅原紋子委員をお願いします。

## ○菅原紋子委員

私は農業分野の方からお話ししたいと思います。先日、農政審議会があったので、ちょっとそのときの話と少し重なるかと思っておりますけれども、まず農業分野で今必要だなと思っているのが農地の集積集約、あとは基盤整備、水利施設の整備は重要だなと思っています。生産者も減っている中で、岩手県が食料自給率が 100%を超えている中で、100%以上を維持できるようにするためにもこういった取組は進めてもらいたいなと思っています。

もう一点なのでありますが、気候変動について、ここ数年夏の暑さがものすごく農作

物への影響も出ているなど感じています。私は、J-クレジットをもう2年ぐらいやっているのですが、昨年特に、暑さと雨が少なかったのもあって、単収が落ちました。県としても農地の維持はしていきつつ、単収を上げていくという方針があったと思うのですが、J-クレジットをすれば単収が上がるのではないかなとここ2年やっていて感じています。ですので、環境に配慮した生産をしていかなければいけないのは十分分かっているのですが、単収を下げてまでやっていくべきことなのかどうかというところが今ちょっと悩みというか、どうしていったらいいのかという、そういった悩みもあります。J-クレジットをすれば単収が上がるし、県としては単収を上げていくという方針の真逆なことをしていつているので、県としてもどのように今後やっていくのかなと、進めていくのかなというところを伺えれば良いなと思っています。

### ○小川智会長

リモートで滝川佐波子委員をお願いします。

### ○滝川佐波子委員

「健康・余暇」分野ですが、無痛分娩の実施体制整備費補助を今年度入れていただきまして、ありがとうございます。県内で無痛分娩の受入がなされれば妊婦さんたちの選択肢が増えまして、大変好ましいことと思います。一方、受け入れる病院や診療所におきましては、大変忙しい業務の中でございますので、申請手続が煩雑であったりしますと二の足を踏むことになりかねません。無痛分娩の経験のあるスタッフがおそらく少ないと思われるので、その確保や研修のための新たな費用がかかることも予想されます。分かりやすい申請手続や予算の配分をどうするのか、また何を経費として認めるのか、そういったことを具体的に関係機関と協議していただきたいと要望いたします。産後ケア受け皿拡充事業が実を結びまして、少子化対策の一助となることを願っております。

医療従事者の確保、偏在対策は、職種にかかわらず待たなしの課題でありまして、このたびの薬剤師確保対策事業によりまして、病院に勤務する薬剤師が確保され、薬剤師の地域偏在が解消されることに期待いたします。今病院、診療所ともに看護師の確保に非常に苦慮しております。岩手県が進めておりますジェンダーギャップの解消への取組や今般の若者・女性部会の設置、こうしたことをアピールしていただきまして、女性が生き生きと暮らせる岩手県であるということを医療従事者を目指す若者に認識していただけるような、そういった施策を期待したいと思います。

奨学金制度によりまして、県内各地に医師が勤務しておりますが、義務年限が終了した後の定着が課題となっております。岩手に居続けても最高の医療技術、看護技術を習得できる、こうしたことがやっぱり大切でございまして、私学ではございますが、岩手医大もちょっと経済的に大変な状況でございますから、そういった教育機関への御支援等もぜひお願いしたいと思います。

医師偏在に関しましては、日本医師会がこのたびドクターバンクを設置いたしました。ぜひ県と協力して医師偏在対策に努めてまいりたいと思います。また、医療DXの推進、この必要性は理解しながらも、診療所レベルではコストやサイバーセキュリティ対策に頭を悩ます毎日でございます。引き続きの御支援をお願いしたいと思います。

## ○小川智会長

リモートで長屋あゆみ委員をお願いします。

## ○長屋あゆみ委員

私からは、スポーツをする立場からとしての感想をお伝えしようかと思いますが、健幸づくりプロジェクトの推進というページを今見ております。県としては、医療などのビッグデータの利用活用というのはとてもいいなと思っています。そして、そちらを情報発信していくということでしたが、右側の②のところに個別の市町村の健康課題の解決に向けた伴走型支援を実施するとありますが、具体的にはどういうものなのかなということを御質問させていただきます。といいますのも、全国各地に、岩手県も漏れなくですが、総合型地域スポーツクラブというものを設置してあるはずなのですが、県の方からお聞きしたときに、やはり経営難といいますか、運営するための基盤が苦しい、特に人件費とか、事務費とか、そういった財源確保が難しく、ほぼ機能していないところが多いということ伺いました。そこがネックなために、結局、市町村に例えばビッグデータを活用して県民、市民の方が何か運動をしようと思ったときに、その場の提供がないとか、提案ができないというのは、データだけで終わってしまうのではないかなと危惧しております。ですので、スポーツ協会さんもありますけれども、総合型スポーツクラブもせっかくあるのですから、その財源確保を御検討いただけたらいいのかなと思っています。

そして、総合型スポーツクラブがそういう意味ではコストという扱いではなくて、医療や介護費を下げるための社会的インフラとしての御支援を御検討いただければなと思います。

あとは、実際スポーツをする方からの御意見がありまして、せっかくですので、まだお時間ありますので、お話ししますが、スポーツをする際に体育館を利用される競技というのは多いと思います。例えば冬場になると体育館が取れないというのは、どこの市町村も言っています。例えば外の競技が雪があるために中に入ってくるということですね。その場合、もう取り合いで、日付が変わったときに予約のボタンを押さないと取れないという深刻な状態で、例えばこの間は少年野球の方、指導者でしたけれども、結局トレーニングしたいのに取れないがために毎週やっていた活動が体育館取れるのが月1回か2回、外でやるには雪が多いと。走ったりするのでもいいけれども、なかなか実践的な野球の練習ができないという話も聞いていますので、国が確か支援をしていたかと思うのですが、冷暖房化を推し進めているというのを国が今実施していると思うのです。うまくその方を県と市町村が連携して、子供たちや利用者のための冷暖房化を早く推し進めていただきたいなというお願いです。

## ○小川智会長

山下泰幸委員どうぞ。

## ○山下泰幸委員

様々な政策本当にありがとうございます。感謝します。私からは、自然減、社会減につきましてです。この対策は本当にとってもよいのですが、しかしながらその対策の効果とい

いますか、人口増加の経過が見られないというのが悩みではないのかなと思っております。私は何だろうと思って、ずっと考えてアンテナを張っていたのですが、この前、独身の方も既婚者の方も口をそろえて発言したことがとても驚いたので、今後の政策に生かしてもらいたいと思ってお伝えします。その方々が言っていた言葉は、子どもが贅沢品だという言葉、お金がかかるとか、いろいろそういった理由があったそうです。こういう方々が一定数いることを認識して、自然減のことを考えなければならないのだろうなと思っております。

とてもいい政策なのですが、まずは受け入れる側の方がそのスタートに立っていないという可能性があります。私は、PTAとしてはこの3本の柱を生かし切るために、常に子どもは贅沢品ではなく、子育ては負担ではないと、子育ては親となり、様々な経験をもって人間としての成長を感じる幸せなことでありますと伝えていきます。県の方もこの政策の説明をする際に、御参考にしていただければ嬉しく思っています。

若者・女性部会の件なのですが、リアルな声が聞こえて、とてもよかったなと思っています。次回以降の議題の土台のところ、希望への後押しで「仕事」というところがありました。岩手県に限らず受け身の人たちがとても多いです。仕事がないから戻ってきたくないとか、でもそれでも自分で仕事ができるのだよ、起業できるんだよとかという、そういう未来に希望を持てる岩手県の教育であってほしいなと思っています。

やはりいかなる政策も受け入れる側がそのスタートラインに立っていただかなければ、効果のないものとなりますので、心というところを重きに置いて動いていただければ幸いです。岩手県P連も社会教育関係団体として子育ての楽しさを重点的に進めていきたいと思っていますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。

#### ○小川智会長

吉野英岐委員どうぞ。

#### ○吉野英岐委員

この総合計画審議会に随分長く出させていただきまして、今日が最後なのですけれども、今日の前半にあった10の政策分野というものと県庁の部のクロスするところが実はすごくいいことで、多くの総合計画というのはほぼ部ごとに編成されていることが多いのですけれども、岩手の場合はそうではなくて、政策分野という部を横断するようなセッションをつくって、そこにいろんな部から参加するという形になって、たしかそうになっていると思います。

ただ、どうしても行政というのはよくないと縦割りになってしまうおそれがある、どうしても縦割りモーメントが強いので、慣れてくると政策分野と部がだんだん一致してしまってきて、最初の「健康・余暇」になると保健福祉部、「家族・子育て」になるとやっぱり保健福祉部とか、どうしても責任を持ってやる以上、そこが一致しがちになってきているのではないかなというのはちょっと感じました。

ですので、やっぱりそこはせつかく10の政策分野をクロスファンクショナル、横断的につくっているものですので、全ての部がこれまで関係ないと思っていた分野においても案を出していただくと、それが予算につながるか、つながらないかは分からないけれども、

やっぱり今までほとんどここにいなかった部の人たちが出てきて何かを言って、これが何か使えるのではないかというような発想を柔らかく、柔軟にするような仕組みもこれからやってもいいのかなと思います。総合計画は8年目になると思いますので、大分モーメントが強くなってきて、元に戻ってしまうとものないというのが1つです。

もう一つは、全体的としても、総合計画審議会は固い話になってしまうので、今日いろいろありましたけれども、働き方改革をして労働時間を短くしても24時間あるのだから、残りの時間がどうなのかと、そっちが充実しないと、いくら働く時間を短くしたとしても残りが増えて、そこがあまり前に進まないとならぬのは幸福度が上がらないのではないかと考えています。いわゆる若者言葉でいえばリア充ですね、あるいは最近の話で言うとファンサービスやファンミーティングというような、自分たちが楽しめる環境をいろんなところにつくって、岩手のファン、関係人口もそうですけれども、そういった方々とどれだけサービスとかミーティングができるのか、ファンサ、ファンミーティング、お金をどんどん出してくれるので、そんなこともあって、単にミーティングを開くだけではなくて、お互いに楽しめるようなところをもっとつくっていったら面白いかなと思っていました。岩手の中には、こんなのないのですけれども、エンターテインメント部というのがもしあったらどんなことができるのだろうかというのが、各今の部からも提案があると、やっぱり発想を変えて行って、柱はもちろんそのとおりにやっていくんだけれども、次の世代に向けてとにかく新しい機軸を打ち出していけるような仕組みをぜひ入れていただければなと思っていました。

#### ○小川智会長

最後に、私のほうから簡単に。日本の人口減少が止まらないという状況の中で、日本の活力、例えば、経済力を維持する、あるいは向上するためには、人数が減るので、一人一人の知を、知識とか知恵を意味しますが、これを向上しないとイケません。そのために何ができるかを考えてみますと、やはり短期的あるいは長期的視点に立って初等中等教育、高等教育の充実というのが不可欠だと思います。他県に先駆けて、岩手県がいろいろな取組をすることによって東北あるいは日本の雄になるためにも、今回提示されている4つの重点事項あるいは10の政策分野全てに関わる教育、人材育成という側面の取組、あるいはアクションプランの立案、実行が重要であり、期待をしたいと思います。

私からは以上ですが、実は今日4名の方が都合により御欠席で、少し時間に余裕がありますので、何かまだ御意見として言い足りないところがありましたらお受けしますが、いかがでしょうか。

#### ○沢田茂委員

歴史と文化については、先ほどお話ししたとおりですし、観光への注力については、キーワード的には旅の楽しみの一つである食事という面、さっきちょっと早口になってしまってお話ししましたが、例えばフランス料理とかというのは宮廷料理といいますか、そういうものだと思うのですけれども、日本の場合は日常の食事がおいしいという、さっき言った丼物とかラーメンとかそういったものが外国人の方、日常の食事がおいしい、日本はおいしいのだということの認識があると思いますので、ぜひ岩手県もそういう観光

をPRするときにそういった食事もぜひ幅広く県の北部から南部まで非常に様々な重層的な食文化がありますので魅力づくりの一つなのかなと思います。

それから、企業の活動強化については、労働生産性であるとか、賃金水準の引上げというところが大きな課題として企業の側に横たわっていることでありますけれども、それについては2025年版の中小企業白書にもありますけれども、規模拡大を追求していくことによって、一定程度解決するのだというような報告もありますので、そういった意味では様々な経営指導であるとか、先ほどもちょっと言いました助成金であるとか補助金であるとかという、効率化ももちろん大事なのですけれども、業容拡大に向けた支援を考えていくのもいいのかなというようなところであります。

### ○小川智会長

他ございますか。それでは、特にないようですので、質問的な御意見のところでお答えを事務局の方からお願いします。

### ○大森農林水産部副部長

菅原委員から農地の集積、暑さ対策、単収の問題についてお話がありました。

まず、本県の令和5年度の食料自給率は109%ということで、日本の中でも有数の食料自給率が高い県でございます。

農業従事者の減少や高齢化が進む中で、スマート農業技術を導入しながら担い手が効率的な農業に従事していくためには、基盤整備が重要だと考えております。

昨年7月に策定した「いわて農業生産強化ビジョン」にも生産基盤の強化に取り組むとしておりまして、令和7年度はこれまでで最も多い71地区では場整備を実施しております。

そうしたところで、更なる加速化を進めていくとともに、国では5年間の農業構造転換集中対策ということで農地の大区画化等を推進できるように別枠で必要な予算を確保するとしておりますので、そういった国の動きとも連動し、国の補正予算も活用しながら、令和8年度におきましてもほ場の大区画化、排水の改良、自動遠隔作業を可能とする農道の整備などスマート農業技術に対応したほ場整備の加速化を図っていきたいと思います。

それから、暑さ対策のところ、去年の夏もすごく暑く、生産者や土地改良区の団体にも御協力をいただき、水の管理を非常に頑張らせていただきまして、おかげさまで1等米の比率は96%ということで6年連続全国一ということになっております。

一方で、暑さ対策ということで、高温登熟耐性を有する米の開発に取り組んでおります。品種開発に要する期間を2年短縮できるということで、二期作ができる沖縄県と連携した取組を行いながら、令和10年に開発を行えるように今準備をしているところでございます。

それから、中干しのJ-クレジットの関係で農家さんで取組が進んでおりますけれども、期間を延ばし過ぎると単収が落ちるという話は我々の方でも聞いております。来年度へ向けまして、中干しの延長などを行う際のマニュアルやパンフレットも作成しながら、また研修会も行いながら、最適な中干しのあり方などについても、勉強する機会を設けたいなと思っております。暑さ対策や担い手不足に対する基盤整備にしっかりと取り組んで岩手の農業が引き続き食料自給率を維持、向上できるように我々としてもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

## ○小川智会長

保健福祉部お願いします。

## ○加藤保健福祉部副部長

長屋委員から、健幸づくりプロジェクトの関係でビッグデータを活用した市町村の伴走支援の御質問をいただいたところであります。

今年度、ビッグデータを各市町村に提供する中で、市町村から活用の仕方が少し分かりづらい、どう展開していったらいいかという課題がございまして、そちらの声に対応する形で、来年度モデル市町村という形で、いくつかの市町村に有識者の方々から助言をいただきながら、具体的なビッグデータの活用方法をしっかり寄り添いながら助言をしていく取組をやっていきたいと考えているところであります。

具体的には現場の保健師や国保の事業への活用の仕方や、展開について適切にアドバイスさせていただきたいなというところで、来年度新規で立ち上げたいというところがございます。

## ○小川智会長

それでは、最後に事務局の方からお願いします。

## ○本多政策企画課総括課長

ありがとうございました。本日は、岩手県の取組としてどういった点を伸ばしていくか、あるいはどういったところをより取り組んでいくかということで、次のアクションプランや次期地方総合戦略の策定に向けて、皆様から様々御意見を頂戴したと考えております。

そういった中で、例えば、インバウンドでありますとか、岩手県の魅力をより生かして、こういったところをもっと強めていったらいいのではないかとといった点でありますとか、また今までの取組で様々見えた課題の中で医療分野でありますとか、様々こういったところにより力を入れていくべきではないかという様々御意見いただいたというところがございます。

次の総合計画審議会は6月の予定にしております。そういった中で、メンバーが今回改選期ということで替わってしまいますけれども、そういった本日いただいた意見も踏まえまして、次の総合計画審議会の中ではそういった強み、弱み、それに対して県でどう取り組むべきかといった点をもう少し具体的な議論ができるような形でまとめて、また次の計画の策定の方に反映させていきたいと考えております。大変ありがとうございました。

## ○小川智委員

それでは、これまでの委員の発言を参考に進めていただきますようお願いいたします。進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

## 5 その他

### ○西野政策企画部副部長

それでは、次第5のその他についてでございます。最後に、全体を通して皆様から何かございましたら御発言お願いしたいのですが、いかがでしょうか。

### ○沢田茂委員

先日ある営業店の支店長から、市内の経済産業動向について外部からコメントを求められているので参考となるデータがないかとの照会がありました。自分で持っているデータを探したり、政府の統計などをあらためて調べたのですが、良く知られているとおり、国や都道府県別であれば様々なデータがすぐに把握できますが、市町村別になると意外とデータにたどり着くまでに時間がかかったり、限られたものしかないのが実態であります。そこで、例えば「市町村の姿」などのキーワードで県庁さんのホームページで検索すれば何かあるのではないかと気づきまして、実際に検索したところ、「統計で見る市町村のすがた 沿岸広域振興圏」というデータにヒットしました。先ほどの支店は残念ながら沿岸広域振興圏の中ではありませんので、沿岸広域振興圏があるならほかの振興圏もあるだろうと思って探したのですけれども、見つけれませんでした。ヒットした沿岸広域振興圏のデータは非常に充実していきまして、各市町村別の人口動態、農業、製造業、観光、教育といった具合に幅広く捉えた内容となっています。申し上げたいことは、端的にぜひ他の振興圏についても作成することを御検討いただけないかということでもあります。私たちのようなシンクタンクの仕事もそうなのですけれども、すぐ役立つものだけではなく積み重ねをしていくということも大事だと感じておりまして、私たちが言えば地域金融機関として岩手県を中心とした地域がどういった特徴を持った産業構造になっているのか、最近の経済動向はどのようなだろうということを知らないで地域の皆さんと一緒に仕事をするのは本来的ではないとかねがね思っていますので、そういった意味からも御検討いただければと思います。

### ○西野政策企画部副部長

貴重な情報ありがとうございました。私自身勉強不足で、存じ上げなかったもので、確認の上、いい情報提供をいただいたと思います。横展開させていただくよう関係部局と相談してまいりたい、調整してまいります。他にいかがでしょうか。

### ○西野理事兼政策企画部副部長兼首席調査監

本日は長時間にわたりまして様々貴重な御意見を賜り、本当にありがとうございました。本日の審議会、先ほど発言の中にもありましたが、第23期ということでの委員の皆様での最後の審議会となっております。委員の皆様におかれましては、これまでの岩手県総合計画審議会に御出席を賜り、また幅広く御意見等をいただきましたこと、この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

ここで、小川会長から一言御挨拶を頂戴したいと思っております。小川会長お願いいたします。

## ○小川智会長

委員の皆さんお疲れ様でした。6年間進行役を務めさせていただきました。多くの委員の皆さんの意見を聞きたいということで、ベルを使ったタイマー導入をさせていただきました。堅苦しいところがあったかと思ひますし、堅苦しく感じられたこともあったかもしれませぬけれども、御協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

## ○西野政策企画部副部長

小川会長ありがとうございました。

## 6 閉会

### ○西野政策企画部副部長

それでは、閉会に当たりまして知事より御礼を申し上げます。

### ○達増知事

小川会長ありがとうございました。そして、今任期最後の審議会ということで、委員の皆様も本当にありがとうございました。

自由意見コーナー、様々それぞれの専門や地域に関わる御意見、大変貴重な意見をいただきました。新しく作られた若者・女性部会に関する意見もあり、やはり注目されているなと思ひまして、今後注目していきたいと思ひます。

そして、人材の育成でありますとか、エンパワーという言葉がありますけれども、生産性の向上もそうだと思いますし、できなかつたことができるようになるとか、またやることがより上手にできるようになるとか、そういうことがあらゆる場面で求められているなということも感じていまして、2023年にはエンパワーというのを県政で強調してやっていたこともあり、コロナの5類以降で弱っている県民をエンパワーしていくという、そういう特に緊急性が高かつた時期でもあつたんですけれども、今、物価高騰でかなり弱っているところもありますし、多事多難、災害、猛暑、それからクマ、そういったことでも県民は弱っているといひますか、困っているといひますか、そういったところを一人一人エンパワーするような視点というのが今また重要になっているなと思ひましたので、そういったことを今後の計画策定に生かしていきたいと思ひます。本日は誠にありがとうございました。

### ○西野政策企画部副部長

それでは、本日の議事これで終了いたしましたので、本日の審議会、これを持ちまして閉会といたします。本日も長時間にわたりまして御審議いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。